



習得すべき基礎的・基本的な知識や原理・原則などの学習内容を紙面の冒頭に「つかむ」として位置づけています。児童の発達段階、学習内容によっては、このスタイルにとらわれることなく構成しています。

3年 p11
[体のせいけつ]

石けんで手を洗うことの大切さを習得すべき学習内容として提示。



手型寒天培地の実験写真から石けんで手を洗う意味を考えます。



石けんで手を洗う理由を習得させたい基礎知識としてまとめます。

手のよごれ

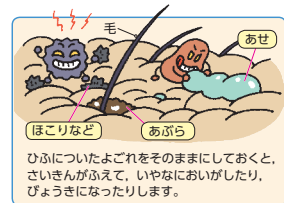


どうして石けんで手をあらうのかな。見たところ、そんなによごれていないようだけど…。



寒天に手をつける。→ 寒天に手をつけて2日ほどたつと、手についていたさいきんがふえて、目に見えるようになってきます。

よごれていないように見えても、手にはよごれやさいきんがついています。運動やトイレのあと、食事の前などには、石けんでいねいに手をあらいましょう。



ひふについたよごれをそのままにしておくと、さいきんがふえて、いやなおいがしたり、びょうきになります。

手あらいのほかにも、体のせいけつのためにしていることはありますか？



下着やハンカチなどのよごれ



下着やくつ下、ハンカチなどを毎日とりかえたり、体育の時間に体育着に着がえたりするのはどうしてでしょうか。

では、実験をしてみましょう。

手あらいは、手のよごれをあらいましょう。



そのまま着ていると、さいきんがふえて、いやなおいがするなどのものになります。



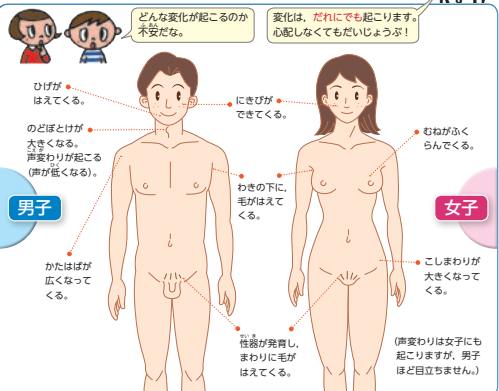
運動したあとなどに、あせのしまつをしなくていいと、体がええかげをひきやすくなります。あせをかいたら、体をふいて、せいけつな衣服に着がえるようにしましょう。

よごれていないように見えても、つけた下着やくつ下、ハンカチ、体育着などはあせやよごれをすいとっています。下着やくつ下、ハンカチは毎日とりかえて、きもちよく生活できるようにしましょう。

見つけよう 体のせいけつについて、これから気をつけたことを書いてみましょう。



思春期には、体つきだけでなく、体のいろいろなところにも変化があらわれてきます。



体に変化があらわれた人 (各学年 100人中)

性別	4年生	5年生	6年生
男子	4年生 2人	5年生 14人	6年生 26人
女子	4年生 17人	5年生 26人	6年生 52人

性腺のまわりにも毛がはえてくる。 (Sex glands around hair grows)
 声変わり (Voice change)
 4年生 39人, 5年生 52人, 6年生 81人

ホルモンってなに？

ホルモンは、わずかなりやうで、体のはたらきを調整したり、成長を助けたたりする物質で、血液によって全身に運ばれます。

体つきや体の変化は、思春期になると体の中で作りだされるホルモンのはたらきが急に活発になるために起こります。これらの変化は、早くあらわれる人や、おそくあらわれる人、変化があらわれても目立たない人など、人によってちがいが(個人差)があります。

4年 p21 [思春期の体の変化]

3年 p12 [体のせいけつ]

学習指導要領「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ…」を受けて、「習得コーナー」を設定。

最初に「病気の原因」の原理・原則をおさえて、次時の学習へと展開していきます。

心は、感情、社会性、思考力がかかり合って成り立っていることをおさえ、次時の学習内容の理解を助けます。

1 心の発達

心は、体と同じように、いろいろな生活経験や年れいとともに発達します。小さいころとくらべて、どのように発達してきたかみてみましょう。



心って、なに？



心は、感情、社会性、思考力などがかり合っ成り立っています。

感情	社会性	思考力
喜び 悲しみ 楽しい いかり	人との かわり ルール きまり 責任 約束	話す 計算する 読む 書く
喜んだり、おこったり、悲しんだり、楽しんだりする気持ち。	思いやりや助け合い、きまりや約束を守る、自分の役割や責任を果たす、など。	文字を読み書きする力、計算する力、すじ道を立てて考えたり、発表したりする力、など。



心のはたらきは、わたしたちの頭の中にある脳のはたらきです。

↑ 5年 p2 [心の発達]

不安や悩みへの対処のしかたには、いろいろな方法があることをおさえます。

1 対処のしかたを考えよう



不安や悩みへの対処のしかたには、いろいろな方法があります。

どんな方法があるか、話し合ってみましょう。

- 原因を考え、ノートに書いてみる。
- 前向きに自分から解決の努力をする。
- 身近な人に相談する。先生や家族、友だちなど。
- 気分をかえる。音楽をきいたり、運動をしたりする。
- しっかり休む。
- 体育の時間に行う「体ほくしの運動」も、気分をかえる方法のひとつです。

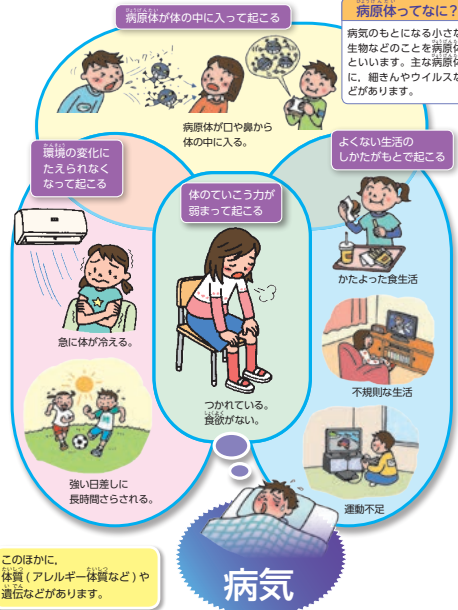
↑ 5年 p9 [不安や悩み]

● 病気の原因を考えよう！



病気の原因

病気の多くは、病原体、体のていこう力、生活のしかた、環境などが、かかり合っ成り起ります。



↑ 6年 p31 [病気の起こり方]

↓ 5年 p24 [けがの手当]

5 けがの手当

注意していても、ときにはけがをすることがあります。もし、けがをしたら、きずがひどくならないように、早く正しい手当をすることが大切です。

+ すりきずの手当

① 清潔な水で傷をあらひ流し、きず口をきれいにする。

② きずが深いときは消毒してから、ガーゼなどを当てて包帯をする。

+ 切りきずの手当

① 清潔な水できず口をあらひ流し、きず口をきれいにし、出血を止める。

② きずが深いときは消毒してから、包帯をする。ガーゼなどでおさえて、出血を止める。（血のついたガーゼなどは、自分で捨てる。）

ティッシュペーパーのときは、きず口を強くおさえない（きず口にくっついてしまうことがある）。

● けがをしたときは？

- ① どんだけか、けがの種類と程度をすばやく判断する。
- ② 大きなけがの場合は、おとなに知らせるすきに医師にみてもらおう。
- ③ 自分で手当できるけがは、自分で手当したあと、保健室の先生、親など、おとなに知らせる。

大きなけがをしている人や、たおれている人を見たら…

● 近くのおとなに知らせ、助けを求めよう。

● 近くにおとながいないときは119番へ通報する。

119番への通報のしかた
[緊急です]
「〇〇市〇〇町〇丁目〇番地です」
（住所がわからないときは、近くの目印を言う。）
「けがをした人がおたれています」

119番に通報すると、「火事ですか、救急ですか」と聞かれます。

正しいけがの手当のしかたを単元の最後にまとめるパターンです。